

ドールの導入から同居まで

渡邊 恵

よこはま動物園ズーラシアでは開園当初の1999年からドール(*Cuon alpinus*)を飼育している。過去に繁殖の成功例があるものの、2010年の出産を最後に繁殖事例がない。現在、国内での飼育園間は当園のみである。今回、既存のメス2個体(No.42、No.43 当時6歳)との繁殖を目的とし2018年3月30日に若いオス個体(No.44、当時1歳)をロシアのノボシビルスク動物園から導入した。

4月25日から4月30日の間に4回、サブパドックにてNo.43と目の細かいフェンス越しにお見合いをしたが良好な雰囲気ではなかった。6月15日にNo.42と同居していた個体が死亡したことを機に、No.42とお見合いを始めた。No.43の時よりは良好だったため、このペアで同居及び繁殖を目指すことにした。目の細かいフェンス越しから目の粗いフェンス越しへと接近できる状況に徐々にしていき、8月24日に同居を開始する。

当園で今まで飼育したドールの過去の繁殖経歴を見ると、初産で生まれた個体は全て死亡しており、親の経験の無いことが原因だと考えた。No.42も出産経験が無く、No.44も子育て経験が無い為、メスが妊娠したときにはオスが仔に危害を加えるリスクを軽減すべくNo.42のみで出産する環境を作るなど対策を打つ必要がある